

# 友好の鐘・火入式に オークリッジ市長感激いっぱい

Friendship Bell dedication rites are emotion filled for Ridge mayor

The Oak Ridger August 5 1993

Oak Ridger staff by Will Fitzgerald

去る6月11～12日、米国テネシー州オークリッジで、日米ロータリー親善会議（友好会議から親善会議と名称変更）が開かれました（本誌8月号横組み22～27ページ）。このうち、パネル討論③の「ロータリーの内外での友好関係と成功しているプログラム」において話題に上っていた梵鐘の火入式が、エド・ネフェーオークリッジ市長らを招いて、7月14日、京都で岩澤宗徹会員（京都西RC）により行われました。この式の模様が、地元紙The Oak Ridger 8月5日号に掲載されましたので、紹介します。

◆Friendship Bellは口径1.46m、高さ2.40m、重さ3トン。片面に富士山と桜花、片面にオークリッジ市の全景を描き、日米が虹のかけ橋で結ばれるようデザインされている。



エド・ネフェー市長とメレサ夫人、ヘルマンとパットのポツマ夫妻、それとウプルリ茂子さんはオークリッジを代表して、京都における国際友好の鐘の火入式に出席した。

銅の鐘は岩澤宗徹さんの会社で鋳造された。岩澤さんはこの鐘の事業のため既に2回オークリッジを訪れている。3トンで8フィートの高さの鐘はオークリッジのA. K. ビセル公園につるされる予定になっている。

ネフェー市長はオークリッジ市の姉妹都市茨城県那珂町（原子力研究所の所在地・オークリッジ市は原爆製造の地）訪問を兼ね、京都の火入式に出席した。彼は那珂町に4日、京都に1日半、広島を忙しく訪ねて後、オークリッジに戻った。ポツマとウプルリ両夫妻は、ノックスビルの姉妹都市室蘭における学部の研究会に、テネシー大を代表して出席かたがた日本を訪問した。この代表団も那珂町と京都を訪問した。

ネフェー市長によると火入は大変綿密な計画で行われ、ほとんどその日1日を要した。「大変暑くしかも湿度が高かった。われわれは広く外に開かれた工場に立っていた。大きな穴はガス火で充填していた。銅と錫を正確な割合で溶かしつつその穴に注ぎ続けた。ずっとその間仏教の僧侶が読経を声高にしていた」と市長は振り返る。「最初に溶けた金属が注がれた時、われわれがどんな宗教に属していようが頭を下げ祈るよう指示された。紙に祈りの文が書かれたものを渡され、それを溶けた金属へ投げ入れ、そして暗紫色の小枝を投げ入れた。これはわれわれの精神と魂を鐘に込める仕儀であった」

この行事は緻密な作業で新聞社やテレビ局の人たちの出席を得て行われたという。

「儀式の終わりに一人の人が私に近づき加藤安

里と名乗った。82歳の老人だが鐘のためにながしの事をしたいと申し出た。彼は私に封筒を手渡し、ほんのわずかのことしかできぬとわびを言った。私が後程封筒を開けると500ドル入っていた」とも市長は言った。

パット・ポツマさんは鐘鋳造式には出られなかったが、彼らのグループは皆感激し、式に畏敬の念を持ったと述べた。「私たちは鐘が立派に出来上がるよう祈るように言われ儀式の一部として皆頭を下げ、手を打ちました」ポツマさんは、岩澤さんは今回の鐘の火入れは彼の人生の最高のことで、最も重要なことで、特別の場面だと言っておられたと告げた。ネフェー市長は、儀式は大変感銘的なもので、オークリッジに鐘をつるすときは、何らかの適宜な儀式が必要だと感じたと言う。市長はこの鐘の持つ意味を強調したい、とも言った。つまり、この鐘は一部の人が言うような、当市における原爆製造への償いやおわびのため、といったものではない。不幸な過去について、当市民が謝るといった性質のものではないのだ。鐘は、国際友好や、全人類の将来の平和の記念碑で、われわれは将来を展望しているのだ、と市長は言う。

ポツマさんや、そのグループは、鐘を初めて鳴らす日に出席した。彼女はその時の衝動をどのように言ったらよいか分からないと言っていた。「ただただ美しかった。とても私たちの予期できなかった鐘の美しさ！ 背筋を冷たいものが走るよう、それほど美しかった。なんとこれは特別なものだと思います」

「この鐘は単にオークリッジを代表する以上のもので、1941年12月7日と1945年8月6日のことを繰り返してはならぬという警告です。鐘はそんな愚行を再確認するものだけど、それ以上重大意義があります。私はオークリッジの市民が何をしようとしているかよく理解していないと思います。この鐘は日本人にとって重大な意義を持つ鐘のことはここオークリッジより日本の方がずっとよく知られているのに」(ただしウプルリ茂子さんがこの鐘に関与していることは、日本ではあまり知られていない)

市長はいまだ鐘をどうしてオークリッジに運

ぶか、またその資金も決まっていないう。港に着けば、それをオークリッジに運び、鐘を建立することと造園の資金を募らねばとも言う。市長は鐘が、実際にビセル公園に設けられるまでは1年ないし2年かかると指摘している。

訳：第2620地区PG加藤恒七(安里)

静岡県・浜松東

火入式の当夜にはオークリッジでのもてなし（岩澤会員はオークリッジ名誉市民の栄を受けました）の返礼の意も込めて、京都西RC有志主催の歓迎晩さん会が市長、ウプルリ茂子さん（京都出身）らを招いて開かれました。

茂子さんは30年ほど前からオークリッジ市在住で、当市50周年記念事業として「広島、長崎の悲劇を生んだ都市として、平和の象徴となる鐘を」と提案。知人であった岩澤会員の協力を得て、梵鐘は完成したわけです。

世界で初めて原爆を製造した国と、唯一の被爆国である国が、ロータリアンによる平和の鐘という、過去のみならず未来の日米友好の証で結び付きました。

さて、心配されていた梵鐘の行方ですが、8月27日、名古屋港から無事、オークリッジへと積み出されました。京都から名古屋までは、京都西RCを中心とした、京都のさまざまなRCの応援で、そして名古屋からオークリッジまでの船旅は、本田技研工業のご好意で海を渡ることができました。また、現地に着いてからも岩澤会員の国際奉仕は続き、梵鐘をつるす鐘楼や公園の準備も既に始まっています。

晩さん会には千宗室元RI理事、加藤恒七PG、本田茂Gら170人が参加、盛会となりました。

